

勝山城博物館で

「旧木下家住宅大解剖展」始まる

9月30日(日)まで開催

勝山 勝山城博物館 2階 電話 088-81113



勝山市と勝山城博物館の連携による第5回目の共催展「重要文化財 旧木下家住宅大解剖 180年ぶりの大修理」が7月21日から、勝山城博物館で始まりました。今回の展示では、現在、北郷町伊知地区(上野区)で進めています国の重要文化財旧木下家住宅の四か年にわたる大規模修理事業において、新たに分かつてきた内容をいち早くお知らせするとともに、木下家のこれまでの歴史や変遷、実際に木下家で使われていた農具や生活用具など、約200点の資料を一堂に展示しています。

重要文化財 旧木下家住宅とは

木下家は、江戸時代後期に伊知地村の庄屋を務めた農家です。

建物は今から180年前の天保年間(1830~44)

に建てられたことが、残された建築関係文書からわかっています。また、これまでの調査では、建物は木下家が新築されてから増改築がほとんどなされておらず、江戸時代後期の当初の姿を今に留める貴重な建物であることがわかっています。

建物内部の間取りについても、当初の形を良く残しています。玄関を入ると、前面に大きな土間空間が広がり、その後方に8畳の和室が4部屋配置されています。さらに、その奥に仏壇を置く部屋や坊主部屋が配置されます。これは、冠婚葬祭時に、仏壇を中心に建物内部を広く使う工夫がなされた間取りで、浄土真宗の信仰の厚い地域特有のものと言えます。



国指定時の旧木下家(平成22年)



修理前の旧木下家(平成27年)

このような間取りは、福井市から勝山市・大野市にかけて分布するもので、その代表例が木下家と評価されています。さらに、建築年代がよくわからない古民家が多い中であって、木下家には建築関係の資料が残り、腕の良い永平寺大工が携わったことがわかる記録が残されています。

このような理由から、平成22年に国の重要文化財に指定され、県内では、7番目の茅葺き民家の指定となりました。今回の修理工事は、建築以来、180年ぶりの大規模修理となるとともに、県内の重文茅葺き民家の本格的修繕としては、昭和53年に行われた越前市の旧谷口家住宅以来、40年ぶりの工事となりました。

見どころは

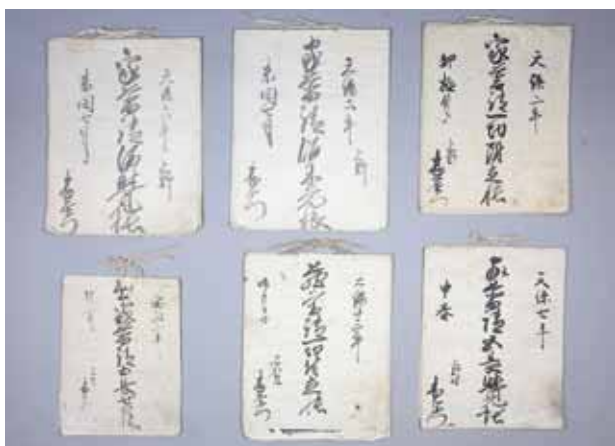
展示では、旧木下家住宅の概要や修理工事の内容を工程順にパネルで紹介しています。また、修理工事の中でわかってきたことや、永平寺大工が関わったと思われる精巧な加工技術なども紹介しています。歴史コーナーでは、江戸時代から、明治・大正・昭和の木下家の歴史や、各時代ごとのような仕事に携わってきたのかについて古文書や史資料で紹介しています。主な見どころは、幕府巡見



学問ノススメ(左)と御廻国様木札(右)



薬種道具



普請関係史料6冊



修理途中の建物内部

幕府巡見使、木下家に立寄る

天保9年(1839)に勝山市域を訪れた幕府巡見使は、遅羽から勝山町、野向地区を巡り、東野村で休息しました(経路図展示)。この時、隣村の木下家にも立ち寄ったことを示す木札(御廻国様木札)が、木下家の資料の中から見つかり、展示しています。この札は、幕府の巡見使をお迎えするにあたり、入り口に掛けられた木札と考えられます。

永平寺大工の技

今回の修理工事では、永平寺大工が関わったと思われる加工の跡がいくつか確認されています。ひとつは、農家では珍しい装飾板が軒先や座敷に付けられていることで、その一枚を展示しています。このほか、ザシキには、精巧な加工技術が各所で認められ、天井板の重なる部分や、床柱の横に渡す長押しに、細かな加工が認められます。

関連イベント

9月24日(月・振)午後1時より、旧木下家住宅の現地見学ツアーを開催します。勝山城博物館から見学バス(定員25人)が出ますので、ご希望の方は史蹟整備課までお申し込みください。

今後の予定

修理工事は、今年の10月末に完了する予定です。その後、指定文化財を火災から守る防火対策工事などを行い、来年の春には一般公開する予定です。